

いぐさ本田における冬期雑草及び後期発生イネ科雑草の防除法

農業研究センター い業研究所 栽培部

研究のねらい

いぐさ田における雑草の発消長は、冬期雑草から夏期雑草と広範囲に及んでいる。また、近年の暖冬傾向やいぐさ田の乾田化に伴い、雑草発生の早期化や優先雑草の変化、さらに、これに付随して除草体系の乱れが問題となっている。

そこで、新たに植付直後の初期処理剤及び後期発生のイネ科雑草選択剤を充実させ体系処理としての防除拡大を図った。

研究の成果

1. 冬期雑草の防除法

- (1) ビフェノックス粒剤による植付直後の雑草発生前から始期での処理は、広葉難防除雑草に効果がある。
- (2) 広葉雑草の早期発生が予測されるいぐさ田を対象に処理するが、スズメノテッポウ等に効果がやや劣るので、DBNなどの中期処理に先立つ前処理剤として使用する。

2. 後期発生イネ科雑草の防除法

- (1) キザロホップエチルフロアブル(100 ml/10a)及びフェノキサプロップエチル乳剤(100 ~ 150ml/10a)を、先刈以降の残りピエなどの補完的防除として使用する。
- (2) 両剤をイネ科雑草(スズメノカタビラは除く)に落水状態で茎葉散布すると、2 ~ 3時間で吸収され、2週間前後で枯れる。
- (3) 両剤は、ノピエ2 ~ 5葉期程度の雑草まで効果があり、先刈後雑草の生え揃った段階で散布できるが、6葉期以降になると効果が鈍るので雑草の大きさに注意して散布する。

